SUZUKI

Let's

取扱説明書

取扱説明書を必ず読んで、安全運転をしましょう

安全運転のポイント（巻末）

www.Let-s.ru © 2008

ごあいさつ

このたびはスズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。
この取扱説明書をよくお読みいただいて、いつまでも快適なバイクライフをお楽しみください。

- この取扱説明書では、お車の装備、各部の取り扱い、簡単な整備の方法などを説明しています。
- **「必読！安全運転のために」**は、とくにしっかりお読みください。
- この取扱説明書で使用している記号 ⚠**警 告**、⚠**注 意**、**アドバイス** のところは、とくにしっかりお読みください。

⚠**警 告**	取り扱いを誤った(守らなかった)場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性が想定される内容を示しています。
⚠**注 意**	取り扱いを誤った(守らなかった)場合、傷害を負う可能性がある内容または物的損害の発生が予想される内容を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいことおよび知っておくと便利なことを示しています。

☆取扱説明書とは別に**「安全運転のポイント」**を巻末に記載していますのでよくお読みください。

お車受け取りの際は、スズキ販売店より下記の説明を必ずお受けください。

◇ お車の正しい取り扱い方法
◇ 日常点検、定期点検整備について
◇ 保証内容について《保証書登録票の記入・捺印》

- 保証に関することや点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載していますので、あわせてお読みください。
- この取扱説明書は、メンテナンスノートとともにつねにお車に備えておいてください。
- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- ご使用中にお気付きの点がございましたら、スズキ販売店または代理店にご相談ください。
- 車の仕様などの変更により、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。

もくじ

必読！安全運転のために

運転の前に 2
運転中は 5
駐車するとき 6
車の整備など 7

取り扱いの方法

各部の名称 8
メータの見かた 10
スイッチの使いかた 11
ハンドルロック 13
スタンドロック 14
シート 14
ヘルメットホルダ 15
パーソナルスペース(トランク) 15
フロントバスケット 16
ガソリンの給油 17

正しい運転操作

エンジンのかけかた 19
発進のしかた 21
スピードの調整 22
ブレーキの使いかた 23
止まりかた 24

お車の点検

法令に準じた点検 25
日常点検項目 26

簡単な整備

簡単な整備方法 27
ブレーキ 27
エンジンオイル 29
エアクリーナ 30
ヒューズ 31
バッテリ 32
タイヤ 32

お車の手入れ

洗車 34
保管のしかた 34

サービスデータ

主要諸元 36
サービスデータ 37
車台番号 37

さくいん

さくいん 38

必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転と上手なオートバイ操作を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。

◇取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
◇ヘルメットを正しくかぶりましょう。
不適切な着用は転倒時などにヘルメットが脱げてけがをするおそれがあります。
◇マフラは熱くなります。
人が触れにくい場所に駐車するなどの配慮をしましょう。
◇ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
◇安全運転、迷惑防止のため違法改造は行わないようにしましょう。
◇定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

■ 安全な運転は正しい服装から

- **ヘルメットを必ず着用してください。**
  頭にしっくり合ったS、SGまたはJISマークのあるヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりしめましょう。
- グローブ、ゴーグルなども着用するよう心がけてください。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ないものを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすい靴をはいてください。

■ 点検整備をしましょう

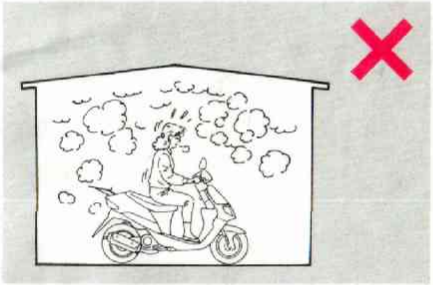
事故や故障を未然に防ぐために、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施してください。

25ページの「お車の点検」参照

また、いつもと違う音やにおいがする場合や液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。

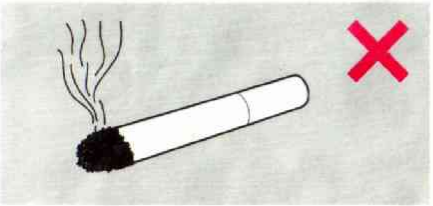
■ 換気の悪いところではエンジンをかけたままにしない

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。



■ 給油時は火気厳禁

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて、火気は厳禁です。

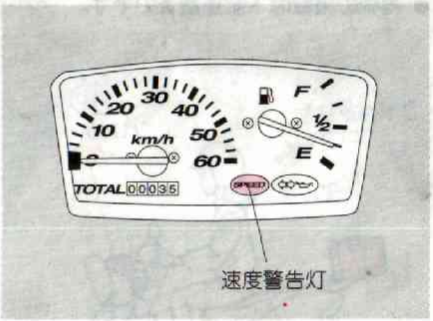


■ 乗車定員は1名

運転者以外の人を乗せることはできません。

■ 法定最高速度は30km/h

この車のスピードメータ部に速度警告灯が装備されています。
車の速度が法定最高速度(30km/h)を越えると、速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。



運転の前に

■ 荷物はしっかり固定

- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないように十分注意してください。
- 荷物の積載は下記重量までです。

- 荷物は上記以外の場所に積まないでください。
- フロントバスケットおよびフロントラックから荷物をはみ出さないでください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

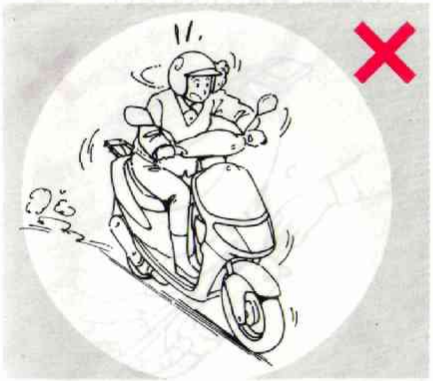
運転中は

■ 手はハンドル、足はステップボードに

運転中は両手でハンドルを握り、足はステップボードに置いてください。

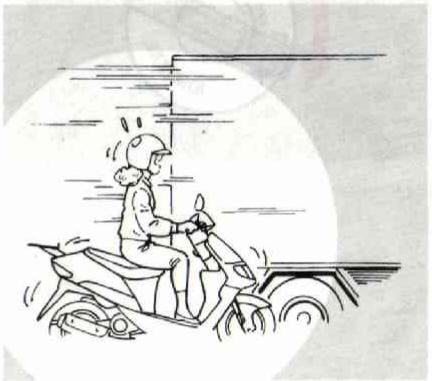
■ 急激なハンドル操作や片手運転はしない

横すべりや転倒の原因となりますので、絶対におやめください。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って走行しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

駐車するとき

■ 転倒防止のため…

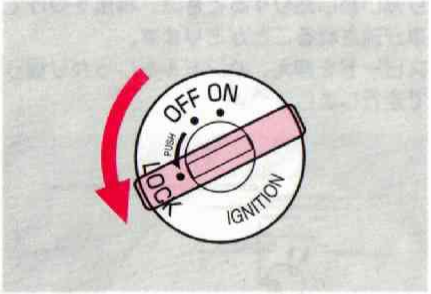
- 車は平らな場所に駐車してください。次のような場合、転倒のおそれがあります。

傾斜地、砂利の所、でこぼこな所、やわらかい地面での駐車など

上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車が転倒したり動いたりしないよう十分留意してください。

■ 盗難防止のため…

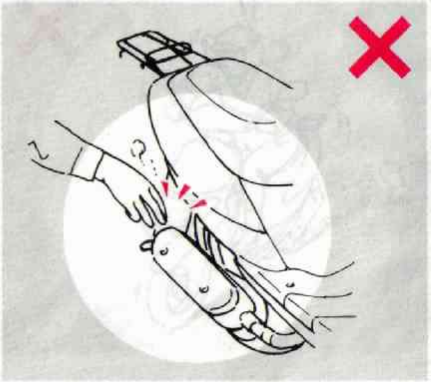
車から離れるときは、必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。



■ やけど防止のため…

エンジン回転中および停止直後は、エンジン本体、マフラなどが熱くなっています。やけどにご注意ください。

- エンジン回転中および停止直後は、エンジン、マフラなどに触れないでください。
- 他の人がエンジン、マフラなどに触れにくい場所に駐車してください。



■ 迷惑防止のため…

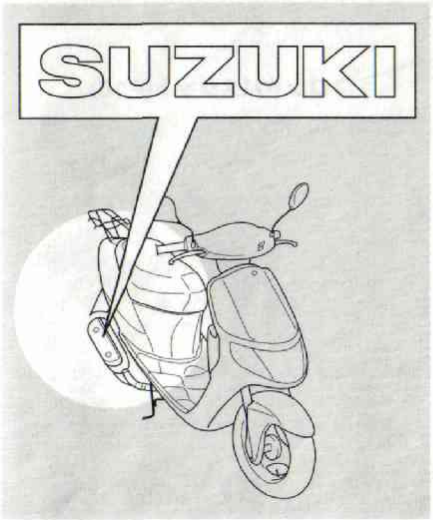
- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。

車の整備など

■ 違法改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますので、ご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



- 自己流のエンジン調整、部品の取外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。

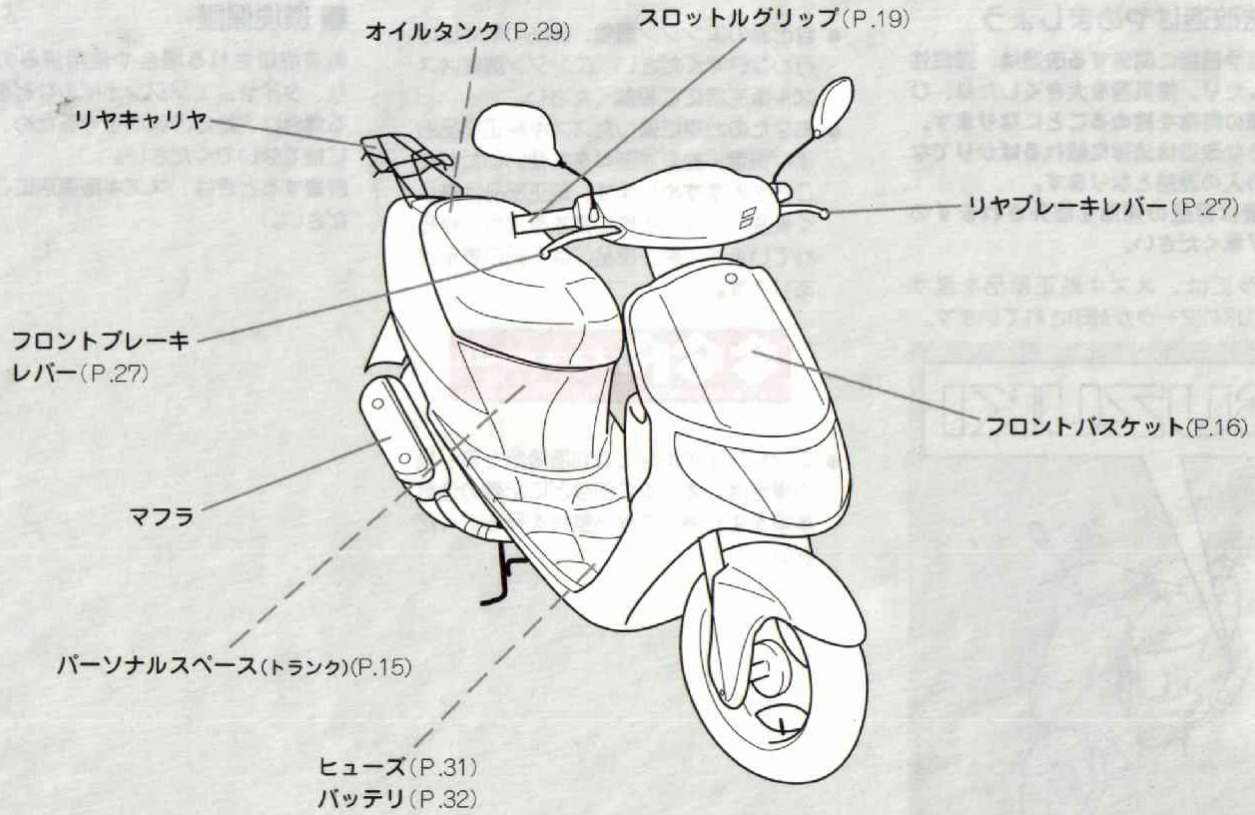
- エンジンオイルなどの油脂液類を取り扱う場合は、オイルの缶などに記載の注意事項をよく読んでから整備を行ってください。

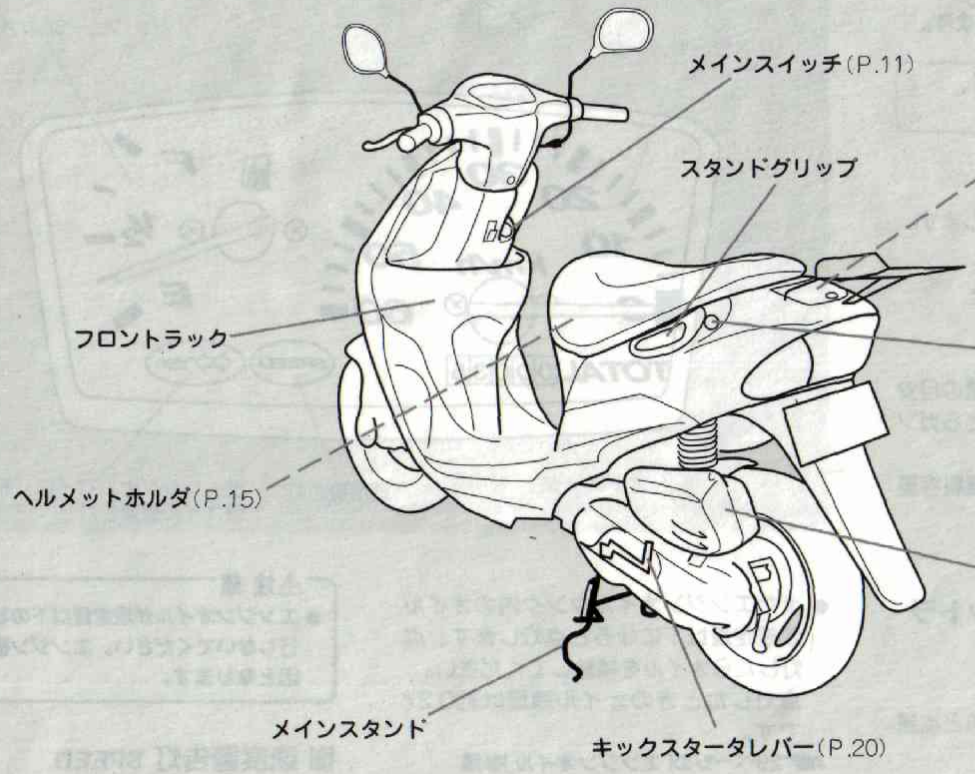
■ 環境保護

将来廃車される場合や使用済みのバッテリ、タイヤ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球の環境を守るため、むやみに捨てないでください。
廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

取り扱いの方法

各部の名称





---部は見えない部分を示します。

メータの見かた

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

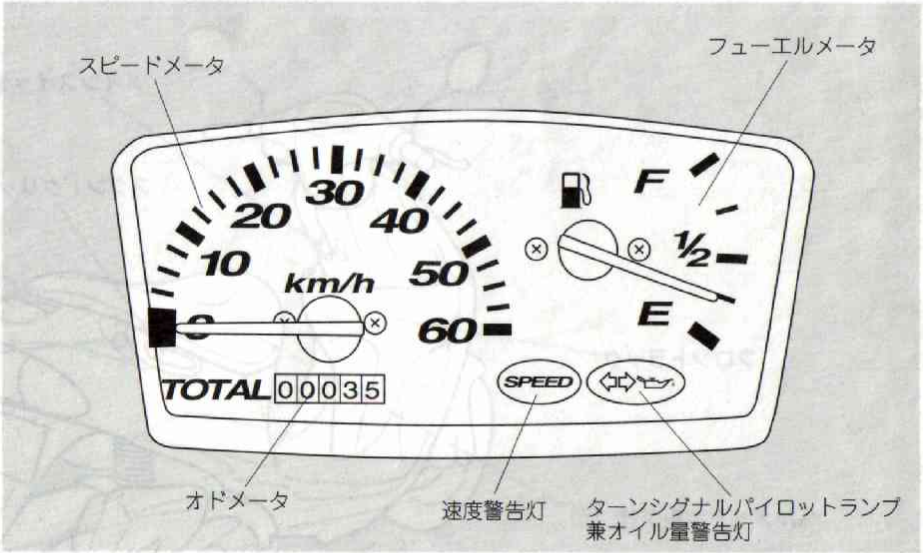
アドバイス
- **法定速度を守りましょう。**

■ オドメータ

- 走行した総距離をkmの単位で示します。白地に黒字は100mの単位です。
- 定期点検などの目安となります。

■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量の目安を示します。Eマークを指しかけたらガソリンを補給してください。
Eマークを指しかけたときの予備燃料容量は約1.5ℓです。



■ ターンシグナルパイロットランプ兼オイル量警告灯

- ターンシグナルランプが作動すると点滅します。
- またエンジンオイルタンク内のオイルが規定量以下になると点灯します。点灯したらオイルを補給してください。点灯したときのオイル残量は約0.2ℓです。

29ページの「エンジンオイル」参照

注意
- **エンジンオイルが規定量以下の状態で走行しないでください。エンジン破損の原因となります。**

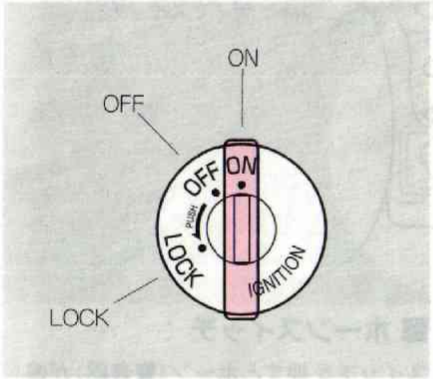
■ 速度警告灯 SPEED

30km/h以上で走行すると点滅します。

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



⚠警 告

- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後操作してください。**

アドバイス

- **メインスイッチONでメータランプが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。**

ON

- エンジンの始動、走行ができます。
- メータランプが点灯します。
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、スタータ]
- キーが抜けません。
- エンジンが始動するとヘッドランプ、テールランプが点灯します。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

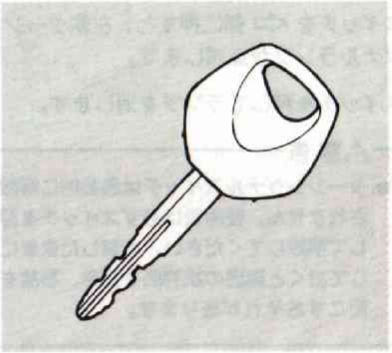
LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

13ページの「ハンドルロック」参照

アドバイス

- **車から離れるときは、盗難防止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。**
- **キーはメインスイッチ、シートロックなどに共通して使えます。**
- **スペアキーは大切に保管しておいてください。**



スイッチの使いかた

■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折

スイッチを ⇨ 側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。

左折

スイッチを ⇦ 側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。

スイッチを押してランプを消します。

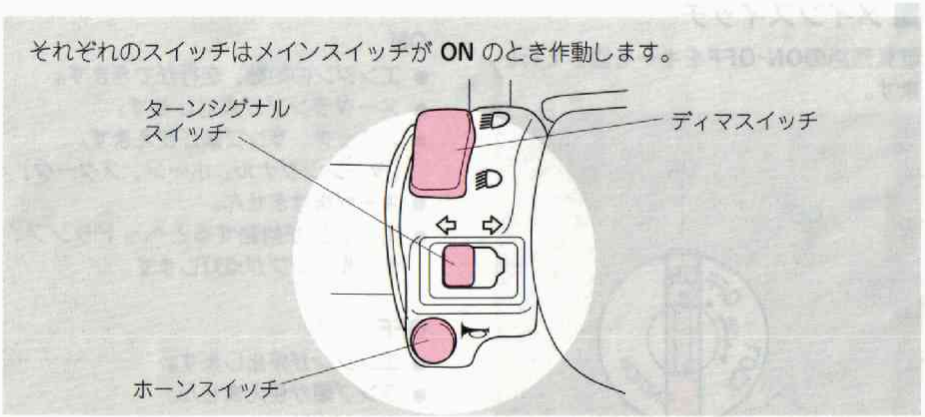
⚠警告

- **ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は必ずスイッチを押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。**

アドバイス

- **ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。**

それぞれのスイッチはメインスイッチが **ON** のとき作動します。



■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを ≡D 側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

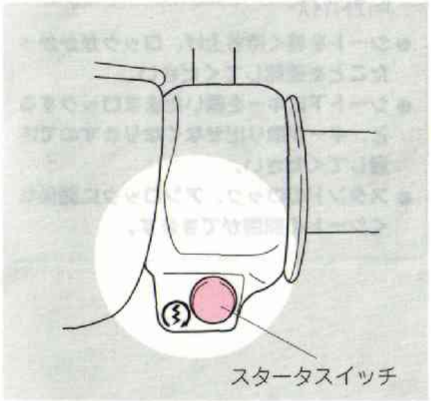
スイッチを ≡D 側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

アドバイス

- **対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。**

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。



■ スタータスイッチ

ブレーキレバーを握って、スタータスイッチ押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。

19ページの「エンジンのかけかた」参照

アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難防止のためにハンドルロックをかけましょう。

<ハンドルロックのかけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら、OFFからLOCKの位置まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

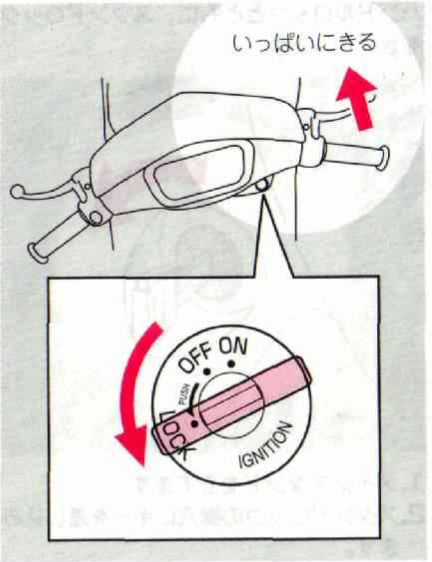
- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。

<ハンドルロックの外しかた>

キーを差し込み、OFFの位置まで回します。

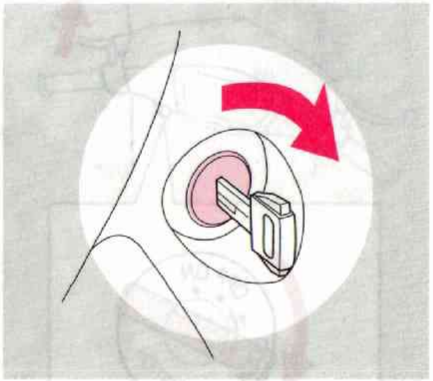
⚠注 意

- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



スタンドロック

ハンドルロックとともに、スタンドロックをかけましょう。



1. メインスタンドを立てます。
2. スタンドロックの鍵穴にキーを差し込みます。
3. キーを右に90°回します。
4. キーを抜きます。

● スタンドロックを外すときはキーを差し左に90°回します。

アドバイス

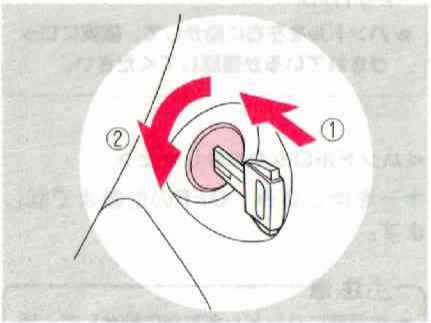
● 車体を前に押し、メインスタンドがロックされているか確認してください。

シート

パーソナルスペースの使用はシートを開けて行います。

1. シートロックにキーを差し、押し込んでから、左へ回してロックを解除します。
2. シートの後部を持ち上げ、シートを開けます。

● シートを軽く押し下げるとシートロックがかかります。



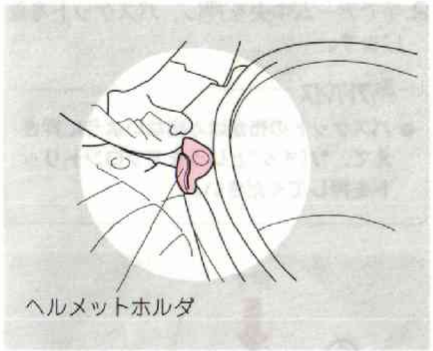
アドバイス

● シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
● シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。
● スタンドのロック、アンロックに関係なくシートの開閉ができます。

www.Let-s.ru © 2008

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難防止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。



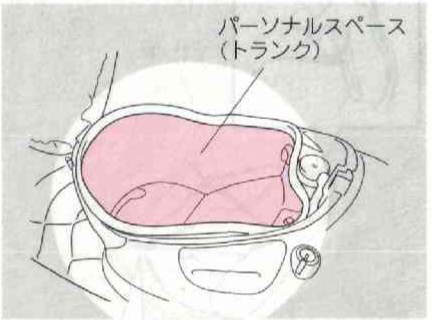
1. シートを開けます。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉じます。

⚠警告

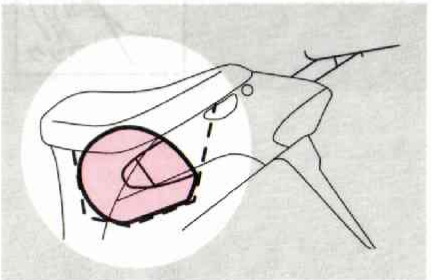
- **ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。**

パーソナルスペース(トランク)

シートを開けるとトランクがあります。
荷物の積載は10kgまでです。
取扱説明書、メンテナンスノートはここに保管してください。



ヘルメットは下図のように入れてください。



⚠注 意

- **トランク内はエンジンの熱や直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすいもの、食料品、可燃性のものは入れないでください。**
- **シートはロックしたことを確認してください。**
  シートロックがかからない状態で運転すると、走行に支障をきたすことがあります。また、シートを開けたままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。

アドバイス

- **壊れやすいものは入れないでください。**
- **車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。**
- **雨や洗車時などトランク内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。**
- **特殊なタイプのヘルメットは、トランクに入らない場合があります。**

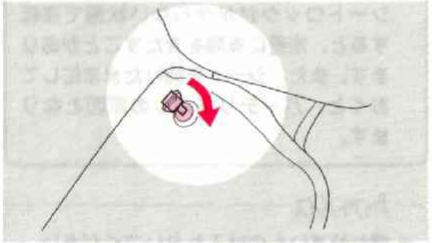
www.Let-s.ru © 2008

フロントバスケット

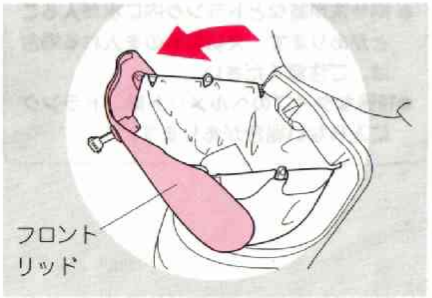
フロントレッグ部に、格納式のバスケットを装備しています。
荷物の積載は3kgまでです。

＜使いかた＞

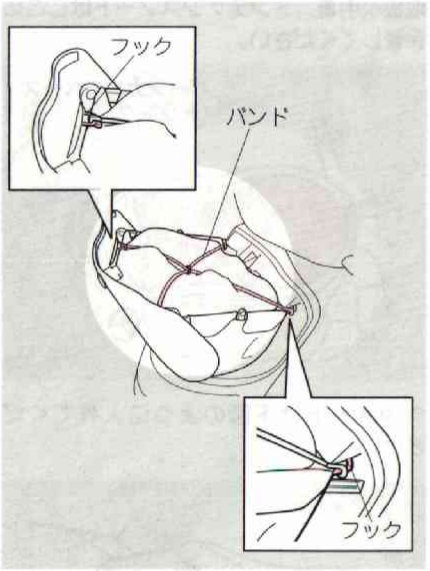
1. キーを差し込み、右へ回してロックを解除します。



2. フロントリッドを手前に引いて、バスケットをいっぱいまで開けます。



3. 荷物を積載し、付属のバンドをかけます。

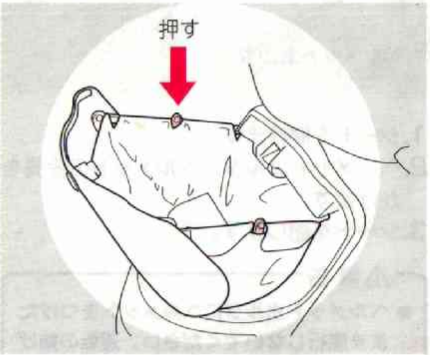


＜格納のしかた＞

1. バンドを外し、荷物を出します。
2. 手でアーム中央を押し、バスケットを閉じます。

アドバイス

- **バスケットの布がはみ出ないように押さえて、"パチッ"というまでフロントリッドを押してください。**



www.Let-s.ru © 2008

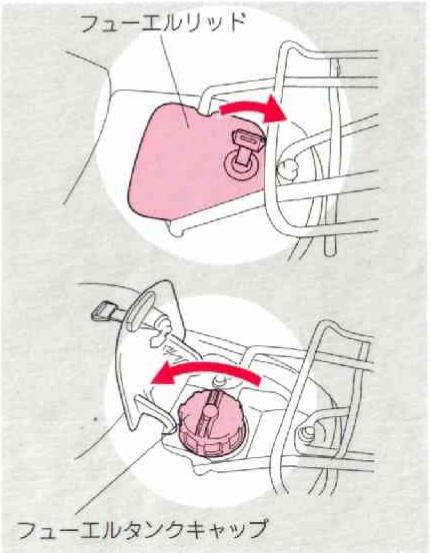
⚠警 告
- バスケットから荷物をはみ出さないでください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- 荷物を積載したら、ハンドルを左右に動かしてハンドル操作に支障がないことを確認してください。

⚠注 意
- 荷物を積載したまま、バスケットを閉じないでください。無理に閉じるとバスケットがこわれます。

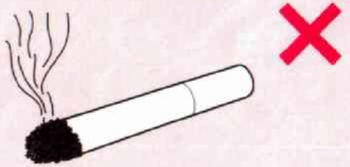
アドバイス
- 車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。
- 雨や洗車時などバスケット内に水が入ります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。

ガソリンの給油

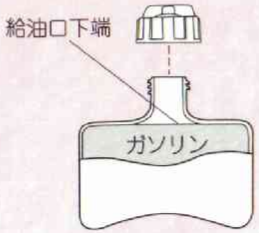
1. フューエルリッドにキーを差し込み、右に回して、フューエルリッドを開けます。
2. フューエルタンクキャップを左へ回して外します。
3. 無鉛レギュラーガソリンを給油します。
4. フューエルタンクキャップを右へ回し確実に取り付け、フューエルリッドを閉じます。



⚠警 告
ガソリンは引火性が高く取り扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。
- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて、火気は厳禁です。



- ガソリンは給油口下端より上に入れないでください。キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。



- フューエルタンクキャップは確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

www.Let-s.ru © 2008

エンジンのかけかた

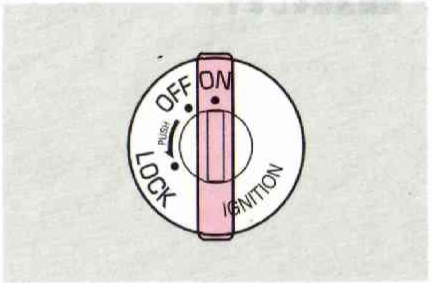
＜エンジンをかける前に＞

- ガソリン、オイル量を確認します。
- 必ずメインスタンドを立ててください。
- 車の左側に立ってください。

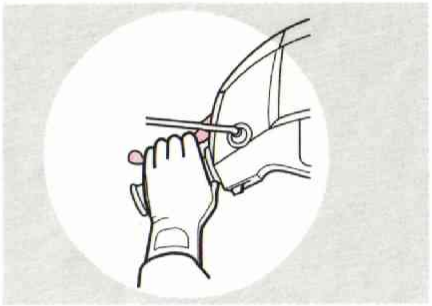
⚠警告

- 排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

1.メインスイッチをONにします。



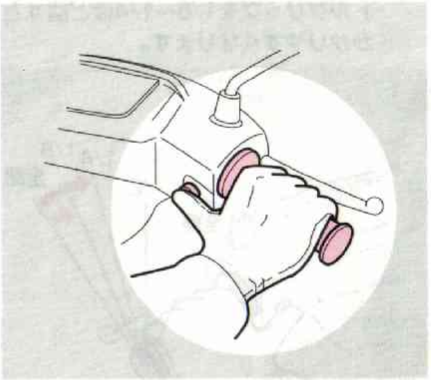
2.リヤブレーキレバーを握ります。



⚠注意

- 飛び出し防止のため、リヤブレーキレバーは発進するまでしっかり握っていてください。

3.スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。



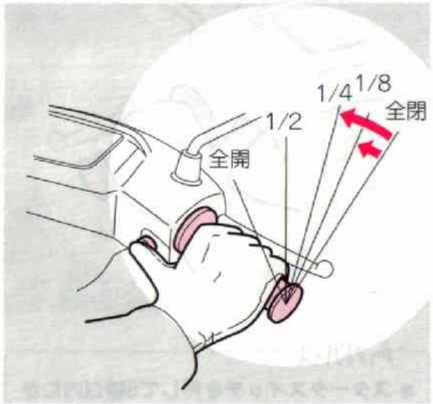
アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内にかからないときは、バッテリ電圧を回復させるため、10秒くらい休んでからもう一度押してください。
- 不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなくエンジンに悪影響を与えます。
- エンジンがかかったらスタータスイッチは戻してください。

www.Let-s.ru © 2008

エンジンのかけかた

- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回すとかかりやすくなります。



アドバイス

- **エンジンがかかったら、スロットルグリップを戻してください。**
- **長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠しガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。**

4.エンジンが冷えているときは、しばらく暖機運転をします。

■ キックスタータレバーを使っての始動

バッテリあがりのときはキックスタータレバーで始動します。

1.メインスイッチをONにします。

2.キックスタータレバーを力強くキックします。

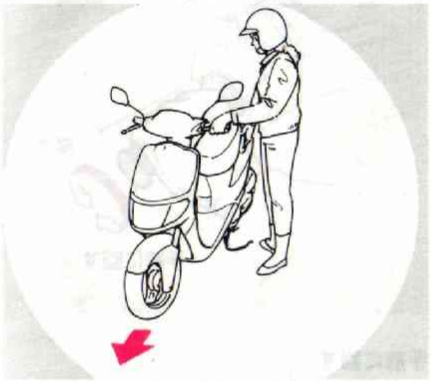
アドバイス

- **エンジンがかかったら、キックスタータレバーを戻してください。**

www.Let-s.ru © 2008

発進のしかた

1.メインスタンドを戻します。
左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンドグリップを持ち、車を押してメインスタンドを戻します。



アドバイス
- メインスタンドを立てたり、戻したりするときは必ずスタンドグリップを持ってください。シートは持たないでください。

2.乗車します。
両手でハンドルを握り、車の左側から乗車しシートに腰をおろします。左足は地面につけて倒れないようにします。

⚠注 意
- 飛び出し防止のため、リヤブレーキレバーは発進するまでしっかりと握っていてください。

アドバイス
- 走り出すまではむやみにエンジン回転を上げないでください。

3.安全を確認します。
発進の合図（右側ターンシグナルランプの点滅）をし、前後の安全を確認します。

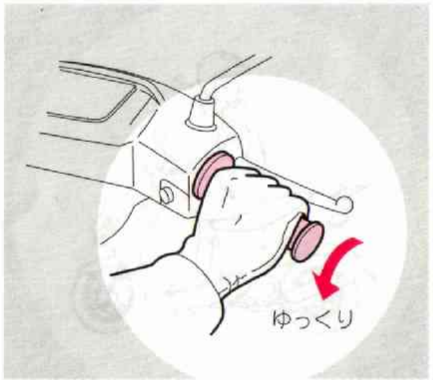
アドバイス
- 近くに人がいる場合、交通量の多い道路、夜間などでの発進には十分注意してください。
- 後方の車には特に注意しましょう。

www.Let-s.ru © 2008

発進のしかた

4.発進します。

リヤブレーキレバーを放して、スロットルグリップをゆっくり手前に回すと車は走り出します。



⚠警告

- **スロットルグリップを急激に回すと、急発進して事故を起こすおそれがあります。**

アドバイス

- **発進したらすみやかにターンシグナルランプを消灯してください。**

<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、25km/h以下で走行してください。
- 不必要な空ふかしや急加速は避けてください。

アドバイス

- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **法定速度を守って走りましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

スピードの調整

スロットルグリップを使ってスピードの調整を行います。

手前に回す

- スピードが速くなります。
- ゆっくり回しましょう。

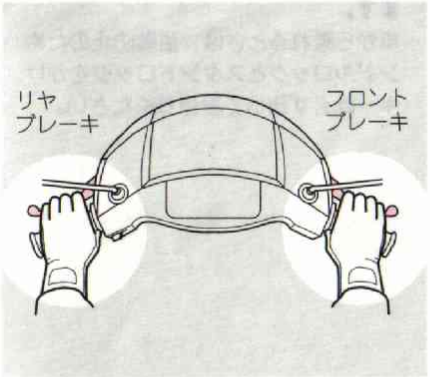
戻す

- スピードが遅くなります。
- すばやく戻しましょう。

www.Let-s.ru © 2008

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使いましょう。



- スロットルグリップをすばやく戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- 徐々にブレーキをかけスピードを落としていくのが上手なかけかたです。

⚠警 告

- フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早目にブレーキをかけてください。
- 長い下り坂などでは、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。

アドバイス

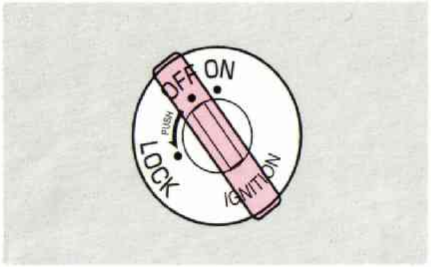
- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

www.Let-s.ru © 2008

止まりかた

1.合図を出します。
早めにターンシグナルランプを点滅させ他の車に注意しながら、徐々に左に寄ります。
スロットルグリップを戻して前後ブレーキをかけます。ストップランプが点灯し後車への合図にもなります。

2.メインスイッチをOFFにします。
車が完全に止ったら、ターンシグナルランプを消し、キーをOFFの位置にします。



3.スタンドを立てます。
交通の邪魔にならない平らな場所でメインスタンドを立てます。

- 左手でハンドルをまっすぐにし、右手はスタンドグリップを持ちます。
- 右足をスタンドの足かけにかけ接地させて、体重を右足にかけながら右手でスタンドグリップを引き上げます。

アドバイス
- **やわらかい路面や坂道などでは車が倒れないよう注意してください。**

4.ハンドルロック、スタンドロックをします。
車から離れるときは、盗難防止のためハンドルロックとスタンドロックをかけ、キーは必ず抜いてお持ちください。

www.Let-s.ru © 2008

法令に準じた点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施してください。

＜日常点検＞

車を使用する人が、1日1回運転の前に実施する点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次ページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
6か月点検と12か月点検があります。

⚠警告

- **法令に準じた点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。**

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の"日常点検の方法""定期点検の解説"をご覧ください。

点検整備データは37ページの「サービスデータ」参照

- 初期点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし、他店では有料となります。また、油脂代、部品代、および、その交換工賃は有料です。

⚠警告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦地で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体、マフラなどが熱くなっています。やけどにご注意ください。**
- **排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検整備を行うときは、火気厳禁です。**
- **走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

www.Let-s.ru © 2008

日常点検項目

ブレーキ

- ブレーキペダルの踏みしろ、およびレバーの握りしろが適当で、ブレーキのききが十分であること。

タイヤ

- タイヤの空気圧が適当であること。
- 亀裂、損傷がないこと。
- 異常な摩耗がないこと。

※溝の深さが十分であること。

エンジン

※エンジンオイルの量が適当であること。
※かかり具合が不良でなく、かつ、異音がないこと。
※低速、加速の状態が適当であること。

灯火装置、方向指示器

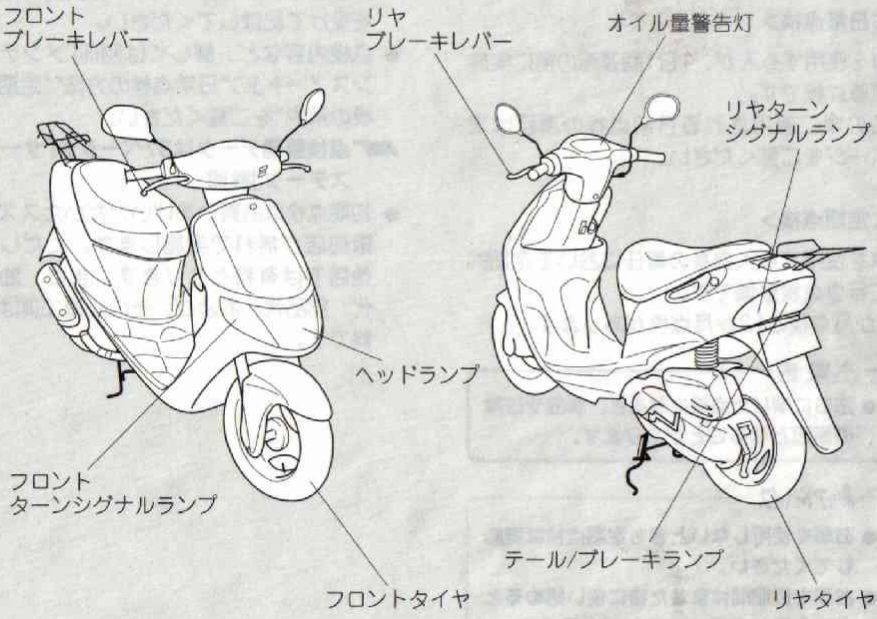
- 点灯、または点滅具合が不良でなく、かつ、汚れおよび損傷がないこと。

前日の運行において異常が認められた箇所

- 当該箇所に異常がないこと。

※印は、お車の走行距離・状態などから判断し、適切な時期に行うことで足りる項目です。

<日常点検・部品配置>



www.Let-s.ru © 2008

簡単な整備方法

ここでは通常行われることが多い、簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警告

- 整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体、マフラなどが熱くなっています。やけどにご注意ください。

⚠注意

- 場所は平坦地で、周りに危険のない所を選びましょう。
- 整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用しましょう。

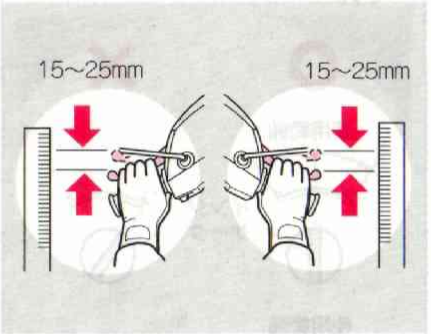
アドバイス

- 油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

ブレーキ

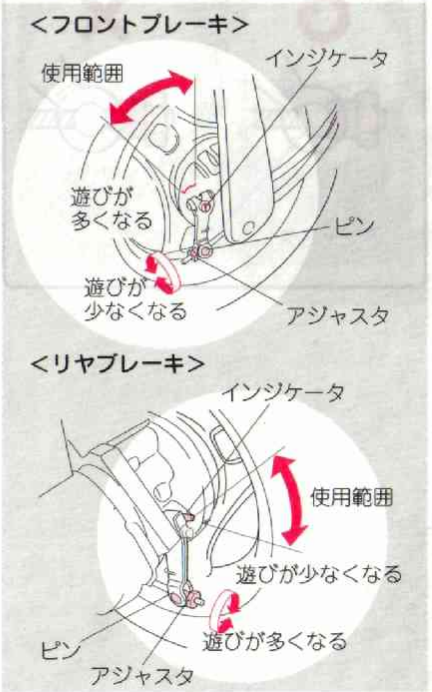
■ ブレーキレバーの遊びの点検

抵抗を感じるまでブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ ブレーキレバーの遊びの調整

ブレーキカムレバー部のアジャスタにより遊びを調整します。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。

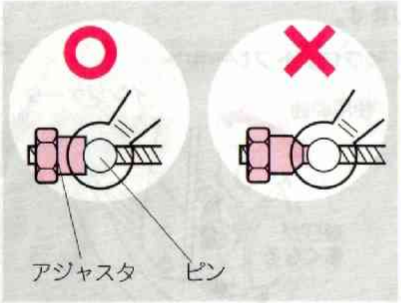


www.Let-s.ru © 2008

ブレーキ

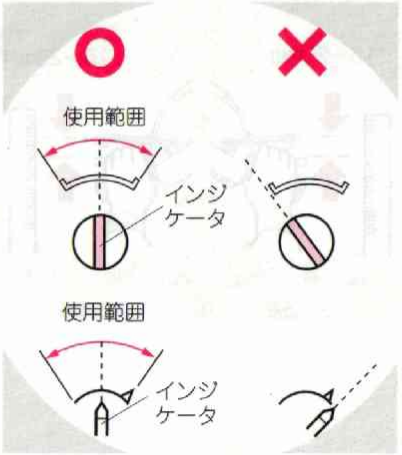
⚠注 意

- アジャスタ凹部をピンに合わせてください。走行中にブレーキの遊びが変化することがあります。



アドバイス

- 調整後、遊びが規定の範囲内にあるかを確認してください。
- ブレーキレバーをいっぱいに握ったときインジケータの延長線が使用範囲から外れる場合はブレーキシューの使用限度です。

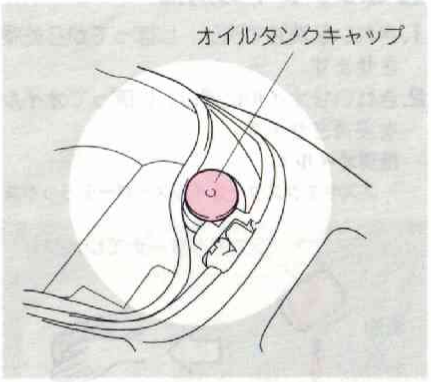


エンジンオイル

■ エンジンオイルの補給

オイル量警告灯(☞10ページ参照)が点灯したらエンジンオイルを補給してください。

1. シートを開けます。
   ☞14ページの「シート」参照
2. オイルタンクキャップを抜きます。
3. エンジンオイルを注入します。
   推奨オイル：
   スズキCCISスーパーオイル
   または相当品
4. オイルタンクキャップを確実に取り付けます。



⚠警告

- エンジンオイルの取り扱い前に容器に記載の注意文をよく読んでください。

⚠注意

- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。
- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。
- タンクキャップの上に布などを置かないでください。エンジンオイルの流れが悪くなり、エンジンがこわれることがあります。

アドバイス

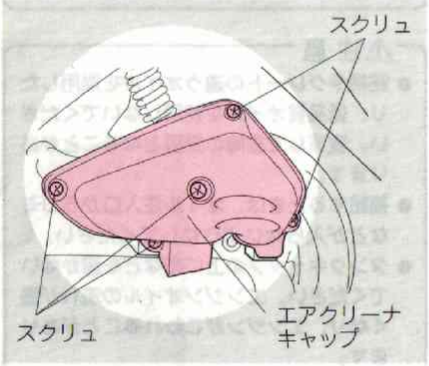
- オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- 推奨オイル相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、JASO FC級をお選びください。なお、JASO FC級オイルでも、特性が微妙に異なり、この車本来の性能が発揮できない場合があります。

www.Let-s.ru © 2008

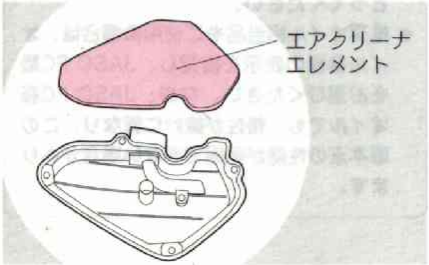
エアクリーナ

■ エレメントの点検

1.スクリュ5本を外し、エアクリーナキャップを取り外します。



2.エアクリーナエレメントを取り出し、目視により点検します。汚れ、詰まりがある場合は清掃します。



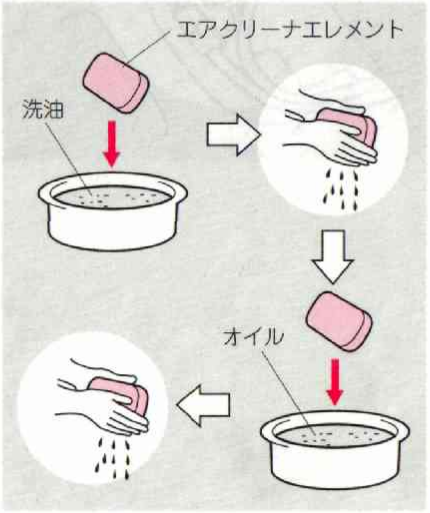
■ エレメントの清掃

1.きれいな洗油で洗い、しぼってから乾燥させます。

2.きれいなオイルに浸し、しぼってオイルを浸透させます。

推奨オイル：

スズキエクスターオイルスーパーデラックス



3.エアクリーナエレメントを取り付けます。

⚠注 意

- エアクリーナエレメントが破れているときは交換してください。
- ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいため、エアクリーナエレメントの清掃には使用しないでください。
- エアクリーナエレメントの取り付けが不完全ですと、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。
- 洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。

アドバイス

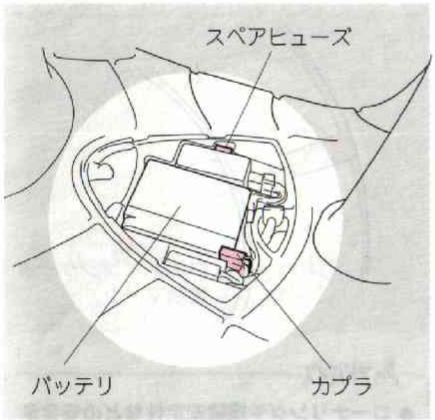
- エアクリーナエレメントをしぼるときは、ねじらないで両手で押さえるようにしてください。

www.Let-s.ru © 2008

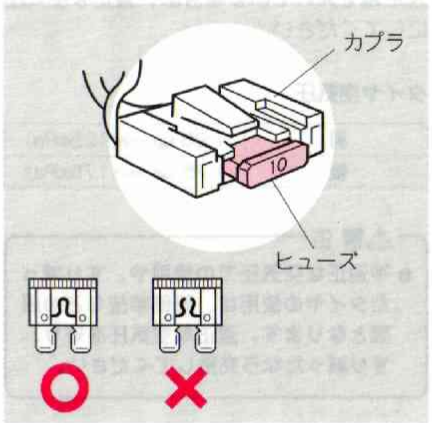
ヒューズ

■ ヒューズの点検

1.メインスイッチをOFFにします。
2.バッテリカバーを取り外します。
3.バッテリを引き出し、カプラを抜きます。



4.カプラの中のヒューズを抜いて点検し、切れている場合は、スペアヒューズと交換します。



5.カプラを差し込み、バッテリを納めます。
6.バッテリカバーを取り付けます。

⚠警 告

- **指定容量を超えるヒューズは配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。**

⚠注 意

- **電装品類(ランプ、計器など)を取り付けるときはスズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。**

アドバイス

- **交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズ以外の原因が考えられます。スズキ販売店にご相談ください。**

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は、密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の量の点検、補給は必要ありません。

⚠警 告

- **バッテリの取り扱い前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときに、エアゲージで規定の空気圧かを点検します。
規定値を外れている場合は、適正な空気圧にしてください。

タイヤ空気圧

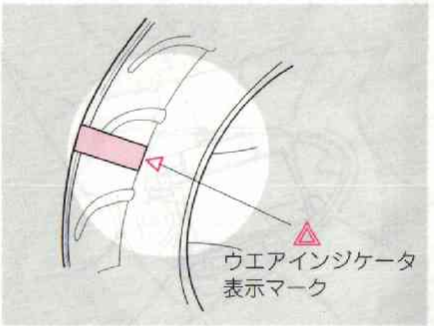
前	1.25 kgf/cm²(125kPa)
後	1.75 kgf/cm²(175kPa)

⚠警 告

- **不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。**

■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

- **コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後1.6mm以上が望ましいです。**

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	3.00—10 32J
	種類	IRC. ダンロップ
後	サイズ	3.00—10 32J
	種類	IRC. ダンロップ

⚠警 告

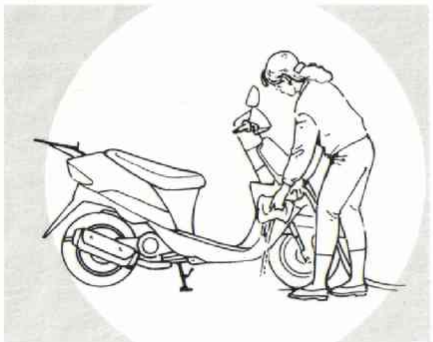
- **指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。**

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。

1. 水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れをおとします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。



⚠注 意

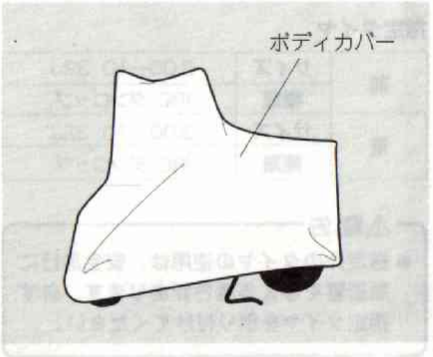
- **洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。**
- **洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。**
- **洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

アドバイス

- **コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。**

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



⚠注 意

- **ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。**

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- 保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、バッテリカプラを外してください。
- キャブレータ内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のサビを防ぎます。

※補充電およびガソリンの抜き取りは、スズキ販売店にご相談ください。

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元
型式		A-CA1KA
長さ		1.675m
幅		0.635m
高さ		1.005m
軸距		1.140m
最低地上高		0.095m
車両重量		73kg
乗車定員		1人
タイヤサイズ	前	3.00—10 32J
	後	3.00—10 32J
燃料消費率		59.0km/ℓ (30km/h)
制動停止距離		3.0m (20km/h)
最小回転半径		1.8m
エンジン形式		2サイクル・単気筒
冷却方式		空冷
総排気量		0.049ℓ
内径×行程		41.0×37.4mm
圧縮比		7.2
最高出力		6.8PS/7,000rpm
最大トルク		0.73kg·m/6,500rpm

＊燃料消費率、制動停止距離は定められた試験条件のもとでの値です。
従って、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

項目		諸元
クラッチ形式		乾式シュー・自動
トランスミッション		ベルト・自動
減速比	1次	3.400
	2次	3.428
変速比		2.530~0.882
キャスター		24°35'
トレール		63mm
ブレーキ形式	前	リーディングトレーリング
	後	リーディングトレーリング
燃料タンク容量		5.5ℓ
オイルタンク容量		1.2ℓ
点火方式		CDI式
点火時期		BTDC14°/1,800rpm

サービスデータ

項　　目	調　　整　　値
フロントブレーキレバーの遊び	15~25mm
リヤブレーキレバーの遊び	15~25mm

タイヤ空気圧	前	1.25kgf/cm²(125kPa)
	後	1.75kgf/cm²(175kPa)

スパークプラグ	種　類	NGK	BPR6HS, BPR5HS, BPR7HS
		DENSO	W20FPR, W16FPR, W22FPR
		BOSCH	WR7BC, WR5BC, WR8BC,
	ギャップ		0.6~0.7

バッテリ	種　類	FT4B-5
	容　量	12V—2.5Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L	12V 30/30W
	ストップ/テール	12V 18/5W
	ターンシグナル	12V 8W

ヒューズ	10A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

車　　名	レッツ
車台番号	CA1KA-

車台番号はフレーム右側下部に打刻してあります。

さくいん

さくいん

あ

安全運転
- 運転中は …… 5
- 運転の前に …… 2
- 駐車するとき …… 6
- 荷物 …… 4
- 服装 …… 2

運転操作
- エンジンのかけかた …… 19
- スピードの調整 …… 22
- 止まりかた …… 24
- ならし運転 …… 22
- 発進のしかた …… 21
- ブレーキの使いかた …… 23

エアクリーナ …… 30
エンジンオイル …… 29
オドメータ …… 10
オイル量警告灯 …… 10

か

各部の名称 …… 8
ガソリンの給油 …… 17
車の保管 …… 34
簡単な整備 …… 27

さ

サービスデータ …… 37
シート …… 14
車台番号 …… 37
主要諸元 …… 36
スタータスイッチ …… 13
スタンドロック …… 14
スピードメータ …… 10
スロットルグリップ …… 19
整備方法 …… 27
洗車 …… 34

た

タイヤ …… 32
ターンシグナルスイッチ …… 12
ターンシグナルパイロットランプ …… 10
ディマスイッチ …… 12
点検
- 日常点検項目 …… 26
- 法令に準じた点検 …… 25

な

ならし運転 …… 22

は

パーソナルスペース(トランク) …… 15
バッテリ …… 32
ハンドルロック …… 13
ヒューズ …… 31
フューエルメータ …… 10
ブレーキ …… 27
フロントバスケット …… 16
ホーンスイッチ …… 12
ヘルメットホルダ …… 15

ま

マフラ …… 6
メインスイッチ …… 11

ら

リヤキャリヤ …… 4